

学生団体 Jyoto's

榎井瑞稀（社会デザイン系3回生）

キーワード：SDGs, グローカル, 学習支援

1. 団体概要

学生団体 Jyoto's は、外国にルーツを持つ子どもたちを対象として、学習支援のボランティア活動を行う団体である。2022年に発足し、現在11人の学生が所属している。

主な活動内容としては、①学習教室への参加、②イベントの参加・新規企画の二つである。毎週土曜日の13時半から15時半まで、城東町補習教室にボランティアとして参加し、外国にルーツを持つ小学生から中学生までの子どもたちを対象とした学習支援を行っている。また、イベントの企画開催にも携わっており、昨年はキッズニアでの就業体験研修、環境人間キャンパスで行われるエコフェスへの教室の子どもたちの招待等を行った。

2. 活動を通して学んだこと

今回の活動を通して、補習教室における私たち Jyoto's の取り組み持つ意義と役割の重要性を深く学ぶことができた。

「外国にルーツを持つ子どもたち」と一括りに言っても、その国籍や背景は様々である。そのような多様なアイデンティティを持つ子どもたちが補習教室を通してつながり、活動を重ねる中で日本社会の制度や文化に触れられる場があることの重要性を実感した。

また、日々の学習支援やイベントの企画・実施に関わる中で、単に知識を教えるだけではなく、子どもたちが安心して参加し、楽しみながら学べる環境づくりが不可欠であることを学んだ。特に自らイベントを考え実行する過程では、子どもたちが笑顔になれる工夫とは何かを考えると同時に、日本の文化や社会体制を自然に学べる経験となるよう意識することの大切さに気づいた。

これからも普段の補習教室やイベントが子どもたちにとって楽しく、かつ有意義なものとなるよう努めていきたいと考える。

3. 活動事例

活動事例としては、例年に引き続き行われたキッズニアでの就業体験研修が挙げられる。これは日本でのキャリア形成に関する知識や情報が充分ではない子どもたちに職業の幅やその面白さを感じてもらい、将来について考えるきっかけとなることを目的としたもので、補習教室からは21名の小中学生が参加した。

子どもたちは二名一組となり、Jyoto's を主とするボランティアの学生が各グループを誘導し様々な職業を体験してもらった。消防士や放送局、アイスクリーム屋など職業の幅は多岐にわたり、その就労に応じて「キッズ」というキッズニア独自の通貨を手に入れることができる。キッズはキッズニア内で商品を購入する際に利用できたり、銀行に預けたりすることができ、実践的に通貨の使い方について学ぶ機会になった。参加した子どもたちからは「楽しかった」「また参加したい」といった声を聞くことができ、楽しみながらも職業の幅に触れてもらうという当初の目的を達成できたのではないかと考える。



写真1 キッズニアでの様子（2025年3月）

また新たに取り組んだ内容としては、環境人間キャンパスで開催されたエコフェスへの招待がある。将来の進路選択の一つである「大学」に気軽に訪れてその雰囲気を感じてもらいたいという思いから、

城東町補習教室に通う中高生 25 名を招待した。参加した子どもたちからは「大学生と実際に直接話すことができた。」「大学が楽しいところだと感じた」という大学に対する前向きな感想を聞くことができた。

そして冬には毎年補習教室で開催されるクリスマス会に参加し、クイズの出し物を行った。クリスマスにちなんだ問題や、教室の先生に関する問題を三択形式で出題し、正答率に応じて景品をプレゼントするという形態をとった。

この準備を進める中でクイズの難易度の調整や問題文の取捨選択を行い、言語力や知識量に差がある幅広い年齢の子どもたちでも無理なく参加して楽しめるよう工夫を行った。



写真 2 クリスマス会の様子 (2025 年 12 月)

これらの活動を通して、私たちが企画したイベントが子どもたちにとっての将来の選択肢を広げることや、楽しみながらも知識を広げる機会となる可能性を秘めていることに気づき、今後の活動意欲の向上へとつながった。

4. 今後の展望

今後の活動においても、今回学んだこととこれまでの経験を活かし、補習教室での学習支援やイベントが子どもたちにとって楽しく、かつ学びの多いものとなるよう活動を行いたい。

イベントとしては、これまで取り組んできた活動以外にも新しいことにも挑戦していきたいと考えている。例えば節分イベントや春分日のイベントなど、楽しみながらも日本の文化に触れることができるような季節のイベントを増やしていけたらと考えている。

また、引き続き活動メンバーの拡大にも力を入れていきたい。現在 Jyoto's は 3 学年合わせて 11 名という少人数で活動しているため、活動の幅を広げるためにも広報活動に力を入れるなど、人員募集に努めていきたいと考える。

今後も学生ならではの柔軟な視点や発想を用いながら、子どもたちの学習支援と楽しみながら学べる環境を継続的に提供できるよう取り組んでいきたいと考える。